

笠岡の地震 日本の地震

—江戸時代の笠岡で残された地震記録と
日本の地震—



笠岡の歴史を知る会

目次

まえがき v

第一章 南海地震（昭和二十一年十二月二十一日） 1

一 昭和二十一年南海地震の体験談

二 昭和南海地震の被害

（一）発生

（二）震度

（三）全国の被害状況

（四）岡山県の被害概要

（五）笠岡市の被害状況

（六）被害状況の史料（写真と新聞）

（七）「合同新聞」記事等から昭和二十一年十二月南海地震

（八）写真・映像の力

（九）日本でも複数のファクトチェック機関を！

1 7 7 9 9 9 10 15 17 20

第二章 古史料に見る笠岡での南海地震の記録 21

一 南海トラフに起こる二つの地震域

二 今日までの南海トラフ地震の記録

（一）発生年月日と震度

（二）被害の特徴

（三）南海トラフの二つの震源域で起こる地震の周期

（四）地震の連動性

三 古史料に見る笠岡での南海トラフ地震の記録

（一）秋里籬寫「中国名所図会」から永正地震

（二）関島翁「嘉平田舎詠草」から安政地震

21 21 21 21 22 22 22 22 24

四	大津屋安兵衛「大地震大変扣(控)」から安政地震	25
五	大津屋安兵衛『大地震大變の控』現代文に書き直し	28
六	花房家文書「花房銀三郎地震日記」	32
七	和歌山県を襲った地震	33
八	(一) 安政の地震	33
九	(二) 昭和十九年東南海大地震	34
一〇	(三) 昭和二十一年南海道大地震	34
一一	(四) 地震は予知できるか	35
一二	稲むらの火	35
一三	(一) 「稲むらの火」が語るもの	35
一四	(二) 稲むらの火―国定教科書尋常小学校五年生用	36
一五	(三) 津波は引き波だけで始まるわけではない	36
一六	(四) 広村をおそった巨大津波	37
一七	(五) 濱口儀兵衛(はまぐちぎへい)	37
一八	(六) 濱口儀兵衛の広村(ひろむら)再建計画	38
一九	(七) 交友を広げて教養を深める	39
二〇	地震予知について	40
二一	(一) 今村明恒(いまむらあきつね)博士	40
二二	(二) 茂木清夫(もぎきよお)博士	41
二三	(三) 関東大震災	43
二四	第三章 日本の地震の記録と潜在危険	47
二五	一 地震発生の仕組みと地域	47
二六	二 活断層とは	48
二七	三 地震の大きさ 「震度」と「マグニチュード」	48
二八	四 南海トラフ地震	49

- (一) これまで南海トラフで発生した地震
- (二) 東海トラフ地震の新たなとらえ方
- 五 熊本地震と南海トラフ地震
- 六 笠岡市周辺の断層地震
 - (一) 断層を震源とする地震
 - (二) 震度予想
 - (三) 液状化予測
 - (四) 中四国における各断層の位置と概要
 - (五) 被害想定
- 七 南海トラフ巨大地震の岡山県の被害想定
 - (一) 想定条件
 - (二) 前提条件
 - (三) 私たちができる防災
- 八 安政東海地震とプチャーチン
- 九 エルトワール号遭難事件
- 十 複合災害をもたらす現代の大震災
 - (一) 一九四〇年代の震災から「教訓」を得られず
 - (二) 巨大な「複合被災」となった東日本大震災
 - (三) 私たち自身が「災害の語り部」にならない
- 十一 チリ地震
 - (一) 天保「チリ地震津波」が問いかけるもの
 - (二) 昭和のチリ地震
 - (三) 世界の地震分布
 - (四) 日本の地震発生場所と大きさ
- 十二 プレートテクトニクスとは何か
 - (一) プレートとは

(二) 失われた大陸？

(三) ウェゲナーの大陸移動説

(四) プレートテクトニクス理論の登場

十三 プルームテクトニクスとは何か

(一) プルームテクトニクスから全地球テクトニクスへ

(二) スーパープリューム（スーパープルーム）

(三) 大陸移動

(四) 太平洋の誕生

十四 日本列島を分断するフォッサマグナ

(一) フォッサマグナ

(二) 日本列島の大陸からの分離

(三) 温泉と富士山の関係

(四) 中央構造線とはなにか

十五 地下構造からみた岡山平野の成り立ちと地震災害

(一) 地震波の焦点効果

(二) 次の南海トラフ巨大地震の発生確率について

(三) 岡山ではどうするか

付録① 大津屋安兵衛「大地震大変扣（控）」原本の写し

付録② 江戸時代の笠岡町地図

付録③ 南海トラフ大津波確率26%以上

参考文献

80 79 79 79 76 76 75 73 73 72 72 71 70 70 69 69 68

編集後記

編集委員 笠岡町の歴史を知る会

99 97 96 81